

「知恵をください」

～この地をいやしたまえ～

Ⅱ 歴代誌 1 : 7

充実するということはそこに満ちしがあります。私たちが時間流されて生きているのであればそこに満ちしがありません。努力しても虚しさが残ります。しかし、神様の前で充実するというは絶えずそこに実を見出すことが出来るわけではなく、たとえ涙の種まきがあっても種が必ず実が実る時がくるわけですが、私達が実を得る為には種を蒔いたことを覚えておく必要があります。私達はよく忘れていて過去を後悔やマイナスと思っています。過去の記憶が全く作り替えられていて記憶置換になり記憶が変わっているのです。被害者意識になっている人もいます。そのような事では蒔いた種が分からなくなり私達は蒔いたのに間違えて抜いてしまいます。クリスチャンの人生というのは全てが愛はたらき益とされるわけですが、神の愛に従って、神の計画に従っている人達、神を愛しその計画に従う人々には全てを働かせて益とする計画だと分かっているわけではなく、ある男性が一人のお年寄りを見つけました。その人は非常に疲れて倒れ歩けなくなっていました。彼は優しく介抱して助けました。するとお年寄りは最後に袋を渡し彼に伝えました。「是非河原に行って袋に石をいっぱい入れて帰ってください。」しかし彼は旅をしていました。「きっと明日になったら最高の喜びと最大の後悔をこの袋を通して感じるでしょう。」しかし、彼は全部従わずちょっとだけ従い袋の中に5つの小さな石を入れました。次の日になると、その石は金になり喜びました、もって入れておけばよかったと後悔しました。クリスチャンの人生というのはこのようなことが多いのです。ですから毎年覚えておかなければいけません。聖書は私達に残しているのです。

■ 聖書には答えがある

ソロモンの人生をみて神様が知恵を与えられたことがよくわかります。ソロモンは知恵を求めて祈った結果それ以外のものを得ました。後にソロモンの人生を後半減ぼしていきます、ソロモンは晩年色々な問題に出くわし偶像礼拝の道へ進んでしましますが神様が選んだ人をたとえ失敗しても見放さないということを伝えています。なぜ見放さないのかというと聖書には記されています。【父ダビデに免じて】と。ソロモンはたくさん失敗をしますが、その度あなたの父ダビデに免じてという言葉が出てきます。旧約聖書ではダビデに免じてですが、後にイエス・キリストに免じてという言葉が変わっていきます。クリスチャンが神様の下に求めなければいけないのは知恵であるということが分かります。その知恵とは何なのか。神様の下に求めるのは愛でないのかと思われがちですが、愛も大事ですが知恵がなくては愛を表す事ができません。愛には知恵が必要なのです。2018年コンピューターの知能も人間と同じになり更に人工知能が増し加わり30年後には人間は全ての機能がコンピューターに負けてしまいます。そうなると人間の仕事もコンピューターが出来てしまい仕事を失うことになり。しかし、いくらコンピューターが知識を得たとしても知恵は無いのです。コンピューターは知識だけで過去のデータと確率でしか物事を判断できません。聖書は無から有を生み出すといっています。無から有なのは過去は関係ないのです。それがクリスチャンの最大の強みであり過去がどうであれ知恵は過去を変える事ができるので神様に求めなければいけません。ソロモンの時代にも過去がありました。神様の知恵で解決しました。神様の知恵とは何だったのでしょうか？今後クリスチャンは居づらくなると思っています。コンピューターが神様の存在を確率で表し祈って行っている事も統計で結論づけてきます。信仰ではなく、確率で起こっていると説明をつけてきますが、神様は数字ではよめないのです。生きて働かれる方は私達の前で霊の世界で存在し導いていきますからソロモンが求めたのは社会の現状ではなく一番に知恵を求め、最初に行ったことは【神様の家を建てた】事です。ソロモンは神の国とその義とをまず第一に求めるという知恵を知ったのです。聖書は絶えずそんなことがあってもあなたは私を選ぶかと聞いています。それが知恵なのです。これから大変な時代が起ころうとも、文明が開化しても、神様と共にいる人達には関係ないのです。知識の社会の中で私達に知恵の中で生きる方法を教えてくれるのです。聖書は知識です。ロゴスという言葉が使われています。しかし、主が今語られる言葉というのがギリシャ語でレマと呼んでいます。それが知恵と言っています。ロゴスがないと知恵はないのです。知識がないと知恵はないのですが知識の中にクリスチャンとして存在して神様が共にいることで知恵を得るのです。神様は人間にすごい力を与えています。私達は知識ばかりに目をとられ鈍くなってしまいました。感覚というのを知恵なのです。神様の

前に本当に知恵を求めてあなたに与えられている感覚をたとえ統計学が示していることでも最善の道を神様に聞いていかなくてはなりません。そういう時代の中で世の光とならなければいけません。

■ 知恵を得る為にしなくてははいけないこと。インターセッション(とりなし)

ソロモンは神様と対談をしてソロモンは神様からいただいた知恵があり自分の王国の民が神様から離れると駄目になる事が分かっていました。もし民が失敗した時私は神様と人の中に入るから祈りをして民があなたの前で祈ったら許して下さいと、とりなしの祈りをしました。私の名を呼び求めている私の民が自らへりくだり祈りを捧げその顔をしたがい求めその悪い道から立ち返るなら、許すと約束してくれました。この約束とは神様と一緒にいるということです。是非あなたの中に神殿を建ててください。戦いが起こり荒す者が来た時、あなたは山に逃げなさいと言われましたが、イスラエルの人は城壁の中に入ったのです。これが知識と知恵の差なのです。神様があなたにこれをしなさいと言われたときにそれをしないと駄目です。聖書を読んでその情報に基づいて神様に聞いて答えを出していますか。神様はあなたの心の中にいるのですから聞いてください。感情をコントロールする為にとっても大事なことがあります。何によってコントロールするかです。怒りは自分の為には怒りますが、聖書の中では相手の為には怒っていません。イエス・キリストは怒る時や憤りをもって時、その問題を解決する為には怒ります。怒る感情というのは本来悲しみと喜びと怒りが連動して動くのですが怒りだけが独立共同体になっており怒りだけが全てを破壊してしまいます。私達がしなくてはいけないことは聖書に答えを見出さなくてはなりません。絶えずたくさん情報が入ってきますがそれは過去の統計に基づいてきますから非聖書的です。アダムとイブが神様から墮落して以降、培われた全ての統計が基で非聖書的な統計に基づいてあなたにこうあるべきだと伝えてきますが聖書の神様の愛のメッセージに目を向けなければなりません。

■ ① 御言葉による 知恵とベストな決断

第Ⅱ歴代誌7章15～16は是非御言葉を覚えておいてください。ソロモンが建てた神殿はあなたです。あなたの祈りに耳を傾けると言っています。あなたの中に神様がいますからです。では、祈りが聞かれないのは神様を追い出して離れていくからです。私の手が短くてあなたを救えないのではない、あなたと私の間に隔たりがあり、罪があるから聞かせないようにしているから神様の前に戻らなければいけません。ソロモンは神様に知恵を求めたので感情的になりませんでした。神様の前でベストな知恵をいただいてください。

■ ② 神様の下へ

下は神様に従うということです。神様の下へ行く為、あなたがあなたを見失わないように作戦を立ててください。神様の御声を聞けるように神様と一緒にいなくてはなりません。

■ ③ とりなし

私達はとりなして祈ることを忘れてはいけません。毎日あなたの関わる時、敵対する人の為に祈ってください。大リバイバリストではなく、とりなして祈ることが一番尊いと言われています。天に宝を積む最大の方法はあなたが良いことを人にするのも大切ですが、それよりも尊いことはとりなして祈ることです。お互い問題がある人間同士が裁きあっても変わらないのです。だからこそ祈らなければなりません。背後に働く悪いものや、心の中で騒がせる感情が打ち砕かれるようにいつも神様と一緒にいるように祈り、知恵のない愚かな言葉でやるのではなくとりなしてください。神様の前でとりなす人になってください。聖書というのはどうしたら神様と一緒にいるかを教えている本なのです。あなたにはもう答えがあるということ伝えてほしいのです。もう、知っているのですからちょっとだけやるのではなく、精一杯その事をしてください。そうするとあなたの袋いっぱい神様の尊い精錬された金が満たされます。

(要約者:富岡 美千男)

(2018年7月1日)